

# 高速道路の更新やDX推進など

## 福井県コンクリート診断士会 オープンセミナー開く 第123回研修



県国際交流会館で



大友 健氏



大城 壮司氏

福井県コンクリート診断士会（山川博樹会長）は11日、令和3年度のオープンセミナー

「予防保全を含めた維持管理の時代に向けて」を開催した。

同士会における、123回目の研修会に位置づけている。

会場は、福井市宝永3丁目の県国際交流会館で。約60人が聴講した。会員外からも積極的に参加し、建設会社の技術系社員らが熱心に耳を傾けた。共催は、公益財団法

人福井県建設技術公社が担っている。

講師は2人。大規模更新が進む高速道路の最新線と、建設業界におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）を取り上げた。

西日本高速道路の大城壮司氏（技術本部技術環境部構造技術課）は、橋梁の計画や設計、耐震、大規模更新などを紹介。長崎自動車道

の日見夢大橋や、東九州自動車道津久見川橋、第二名神高速道路信楽第7橋などを具体例に詳説。

まとめとして、氏の問題関心を抱く、「ひび割れで鉄筋は錆びやすくなるのか？ASRでコンクリート構造物の弾性係数は低下するのか？保全分野は、まだまだ分からないことが多い」と率直に話した。

続いて、大成建設の大友健氏（土木本部土木技術部）が、コンクリート工のDXや、PRISM 2020の試行概要、生

コン情報電子化の社会実装、生産性と品質の向上などを分かりやすく紹介

した。国交省のコンクリート工生産性向上検討協議会を受け、生コン情報電子化のクラウド利用や、CIMモデルとの連携など、最新システムについて解説した。

セミナー冒頭、山川会長が挨拶し、開催意義を示した。また、この日が東日本大震災の発生から11年に当たり、参加者全員で黙祷を捧げた。

最後に、濱岡弘二副会長が挨拶。コンクリート全体の流れや見方、考え方を広げる有意義な講義内容に感謝して、締めくくった。